

報告事項イ

スクラム教育推進フォーラムについて

スクラム教育推進フォーラムについて、別紙のとおり報告します。

平成23年12月22日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

スクラム教育推進フォーラムについて

小中学校課・高等学校課

1 趣旨

幼稚園・保育所から大学までの校種の枠組みを超えた連携による一貫的な教育活動の普及を図るため、本年度より実施している「未来を拓くスクラム教育」推進事業で先進的に取組を進めているタワー地域の実践や成果を広く紹介し、スクラム教育推進の取組をさらに深化・発展させる。

2 概要

(1) 期日 平成23年11月17日(木)

(2) 会場 ハワイアロハホール

(3) 内容(詳細は別紙参照)

実践紹介

【映像】「未来を拓くスクラム教育の取組紹介」

【発表】スクラム教育モデル地域の取組(八頭/日南/境港)

パネルディスカッション

テーマ:「スクラム教育の展望」

【コーディネーター】

澤井陽介(文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官)

【パネリスト】

平岡正実(福井県教育庁義務教育課参事)

山口暁美(岩美町立岩美西小学校教諭:スクラム教育推進教員)

美坂靖子(倉吉市立東中学校教諭:スクラム教育推進教員)

置名浩樹(鳥取県立倉吉東高等学校教諭:スクラム教育推進教員)

小澤敦彦(伯耆町教育委員会総務学事室参事)

(4) 参加者数 180名(幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学の教職員、市町村教育委員会関係職員等)

3 成果

参加者のスクラム教育への理解が深まり、校種間連携への実践意欲が高まった。

モデル地域の取組について、現段階における成果と課題が明確になり、今後の展開に向けて見通しがもてた

参加者の感想(アンケートより)

- ・具体的連携をもっと進めていけるように、他校種の先生方と話し合っていきたいと強く感じた。
- ・各タワーの取組が多彩かつ豊かで、どの取組も参考になった。
- ・連携によって教師が鍛えられる。各校種の得意とするノウハウを伝え合っていきたい。

4 今後の取組予定

第2回連絡協議会の開催(2月予定)

H24年度(3年計画の2年次)の取組に向けた事業計画

(別紙資料)

スクラム教育推進フォーラムの概要について

(実践紹介)

【映像】「未来を拓くスクラム教育」の取組紹介

- ・各地域の取組を取材・編集して、本年度から取り組んでいる本事業の概要を紹介
- ・子どもの声(乗入授業や生徒交流の感想)を併せて紹介

【発表】モデル地域の取組

1 八頭タワー

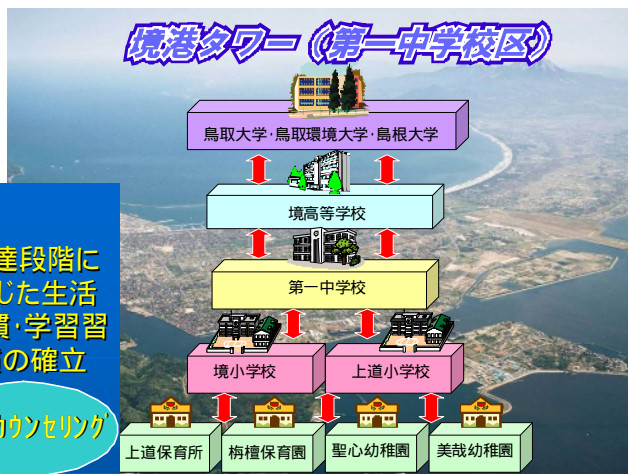
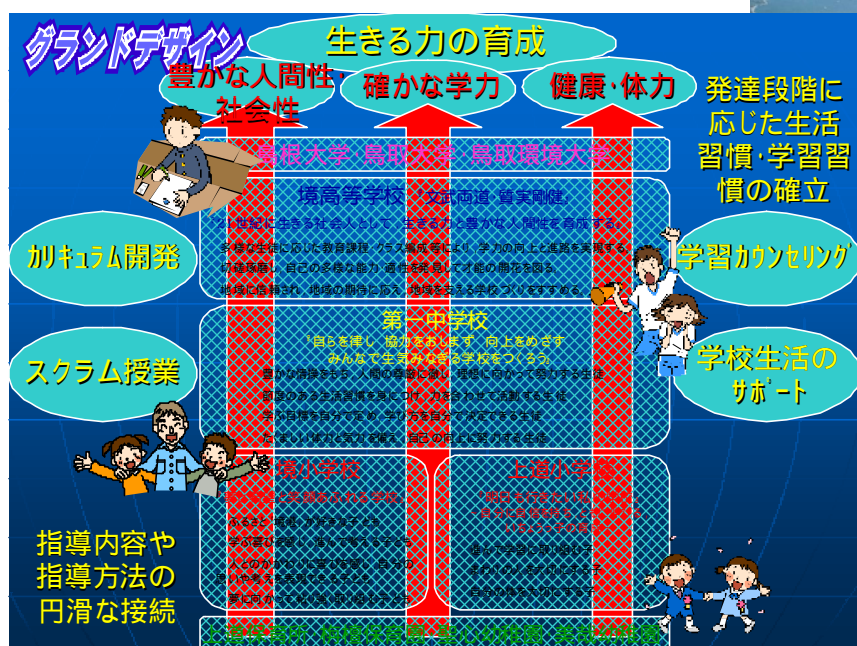
- ・「スクラムリーダー会」を中核とした組織体制による推進
- ・スクラム勉強教室(中高の生徒交流)、数学・英語の中高合同研究会等の取組
- ・アンケートに基づく成果の把握

2 日南タワー

- ・小中の校舎が隣接しているなどの環境的な強みを生かした一貫教育
- ・小学校の統合を機に取り組んだ「めあての明確化」「意欲に着目した合同研究」等を基盤とした取組の構想
- ・小中相互の乗入やTT等の授業の工夫、合同研修会等の実践

3 境港タワー

- ・幼保から大学までの「めざす子ども像」や発達の見通しを踏まえて、グランドデザインやフレームモデルを構築
- ・小学校における教科担任制(理科)、高校教員の中学校への乗入授業(英語科)、中高橋渡し教材の開発、高校生の大学訪問等の取組
- ・意識調査等による成果の把握



【境港タワーの発表資料から】

(パネルディスカッション) 「スクラム教育の展望」



コーディネーター 澤井 陽介 教科調査官
 パネリスト
 福井県教育庁 平岡 正実 参事
 岩美町立岩美西小学校 山口 暁美 教諭
 倉吉市立東中学校 美坂 靖子 教諭
 鳥取県立倉吉東高等学校 置名 浩樹 教諭
 伯耆町教育委員会 小澤 敦彦 参事

==== 【パネルディスカッションの展開】 =====

1 自己紹介と取組紹介

【岩美】

・めざす子ども像や評価指標を協同的に設定し、保小中の連携を推進

【倉吉】

・志の育成と学力の向上をめざし、英語の乗入授業などの取組により中高連携を推進

【伯耆】

・中学校区における授業改善やネットワークシステム等につながる保小中連携を推進

【福井】

・福井県の学力向上をめざした施策と小中連携の3年間の取組について紹介

2 協議

取組を進めていく上での課題は？

価値観の違い、連携することのメリットの認識、組織的な取組に向けた仕組みづくり等
 見えてきた成果は？

取組の方向性の明確化、教員の意識の変化や指導力の向上(互いの専門性や指導方法への学び、児童生徒理解の深まり)、将来に向けた子どもたちのビジョンの広がり等
 今後の豊富や期待は？

取組を広げながら、モデル地域指定の3年間経過後、次につながるような取組に
 フォーラムを通して幼小、中高の連携の必要性を強く認識したところ(福井・平岡参事)

3 コーディネーターのまとめ

【連携の視点】

- (1) 目的の明確化
- (2) 優先順位と順序
- (3) 「共」働から「協」働へ
- (4) 成果は子どもの姿から
- (5) 限界を見極める
- (6) 地域とスクラムを組む

(1) 目的と手段の関係を明確にして取り組むことが大切

(2) 連携を進める際の考え方
 【連携の3段階】
 目的・目標の連続性・一貫性
 教育課程の適時性
 教育活動の円滑な移行

【連携の5ステップ】
 0 予定・計画がない
 1 着手したいが計画中
 2 交流はあるが接続の見通しはない
 3 接続を見通したカリキュラムの実施
 4 カリキュラムの検討

(6) 地域の課題や特色を見据えた取組を構想し地域にメッセージを

(5) 地理的・時間的な限界を見極めて現実的・具体的な手立てを

(3) 相互作用し合う過程が大切

(4) 児童生徒の変容を検証軸に

プラスワン「管理職の連携が大切」